

大 学 生 活 紹 介

じっくり向き合える場所です。

今 菜摘さん

金沢美術工芸大学 油画専攻2年
2017年度 基礎高1・2年専科/2018年度 油絵専科/
2019-2020年度 油絵本科
千種高校出身



1



2

金沢美術工芸大学は金沢の小立野というところにあります。自然が豊かで、歴史ある寺院や加賀藩ゆかりの地に囲まれていて、地域の方々とのつながりも深いです。

油画専攻のカリキュラムは、学部2年生まではシラージュやテンペラ、フレスコなど、古典技法をじっくりと学べます。3年生からは自分の表現したいものの形体ごとにコースに分かれます。しかし、2年生までの期間で古典技法だけしか学べない訳ではありません。インスタレーションやアニメーションの授業もあり、いろいろな体験ができます。

キャンパス周辺の環境も穏やかで自分のペースで制作や生活にじっくり向き合える場所です。



3



4

1. タイトル《レモンとムクドリ》
F10 木枠、画用紙、水彩絵の具、色鉛筆、オーガジー、刺繍糸
2. タイトル《庭》F30 パステル、油絵具
3. タイトル《private》
(インスタレーションの授業にて、パフォーマンス)
4. 基礎科目集中履修 染織の体験授業
(水玉のものが茜媒染を使った私の作品、2枚目の写真は茜を煮出しているところです)

やりたいことができる最高の大学です。

本田 奈々さん

東京芸術大学 油画専攻2年
2020年度 油絵本科
加納高校出身



芸大の油画科では、学生は主に絵画の基礎を学ぶことを基本とし、またそれに限らず自由に表現活動をしています。私は学部2年に所属していて、同じ学年の仲間や担当の教授からたくさん刺激をもらいながら、日々の大学生活を送っています。

1・2年の基礎過程では、絵画を軸にして油絵具のような特定のメディアに限定することなく、自らの新たな表現の可能性を広げるためにさまざまな授業カリキュラムを通して、自身の課題に向き合い、多様な表現媒体を用いて各々が作品を制作しています。時にはスケボーをつくったり…、2週間で2mを超える大きな絵を描け！という課題をこなしたり…。さまざまな経験を通じて新たな視点が得られたり、

思考が生まれたりします。

実技の授業を受けるのは同じ油画の学生なので、大学生活の中でも過ごす時間は一番多いですが、実技以外のいわゆる座学と言われるどの学部・専攻にも開かれている授業では、油画以外の学生とも交流することができます。

また、大学の中には美術館があったり、図書館があったり、また他の学部や専攻の学生が利用する食堂があったりと施設も充実しています。美術を志す皆さんにとって、絵を描きたい！ものづくりをしたい！という欲求を思う存分発散し、やりたいことにどっぷりハマることのできる最高の大学だと思います。



1



2



3

1. スケボー (選択カリキュラム篠田ゼミ)
2. 線と面の構成 (2年前期共通カリキュラム)
3. 芸大取手校地で飼育されているヤギ

OB・OGからのメッセージ

繰り返し、選ぶこと。

近藤 佳那子さん
Art Space & Cafe Barrack 店主
美術家

愛知県立芸術大学 油画専攻卒業
2005年度 油絵日曜専科/2006-2007年度 油絵本科
桑名高校出身



私は現在ペインターとして活動すると同時に、同じくペインターの古畑大気さんと元電器屋を改装し、カフェとギャラリーが一つになったスペース「Barrack (バラック)」を運営しています。

自分の制作をする一方で、週の半分は自分でご飯や飲み物を出すカフェスペースと月ごとに作家を紹介するギャラリースペースを運営して生きています。また、食や音楽のイベントを企画したりBarrackというユニットとして全国のアートイベントやプロジェクトにも参加する他、スペースのある瀬戸市にてゆかりの作家たちと共に「瀬戸現代美術展」という3年に一度開催される芸術祭も主催しています。

一人きりじゃないとつけれないものと、誰かとでなければつけれないもの、種類の違うそのどちらの喜びも他では得難く生きていくうえで必要であり、その間を繰り返し行ったり来たりする中で、こういうものが私にとっての美術であるとだんだんわかってきた今日この頃です。

そして、振り返るとそういう今の在りようの源流には、予備校時代、「絵と私」という関係にどっぷりと浸かったこと、同時にその孤独を共有し同じ時間を過ごした同級生や先生に当たり前のように自分を肯定してもらった体験があると感じます。

千種のあのアトリエで、今がどういう未来につながるのかもわからずに絵を描いていた日々も、振り返ると今日のこの日につながっていたんだ、と感じる瞬間がたくさんあって、そういう経験が未知なものを選んでいく私を少しだけ支えて、この先もそんな瞬間をつくるために、一生懸命自分にとっておもしろいと思うこと、美術だと実感できることをやっているつもりです。

うまくいくことも、いかないことも、その時々でいくつも起きますが、せめて自分がよいと思えることを選んで繰り返し続けていくことが大事なのかな、と思います。



1



3



2



4

1. 「bye bye」 撮影：城戸保 2. 「おままごと」 撮影：園田加奈 3. 「木陰の中の宇宙」 4. 店内の様子